

鳥越一輝

深みとワクワク感の両立

「記憶された」2022年 コールタール、石膏、珪藻土、煤、プラスチック、顔料、蜜蝋、アクリル、ペンキ、油絵具
ボンド、モデリングペースト、ニス、ストリングジェル、アクリル、キャンバス 50号F



2021年のアートフェアアジア福岡(AFAF)で Gallery EM、Gallery MORYTA、なお画廊の3ギャラリーから出品した計28点の作品が完売。その後も各所の展覧会で作品が完売している鳥越一輝。その人気の秘密はどこにあるのだろうか。

日本デザイナー学院九州校で学びつつ、自身の描きたい絵画を模索していた鳥越。在学中に画家・吉浦拓三に出会い、その大胆な作品を見て「きつとこれが僕の描きたいものだ」と感じたという。「その後10年以上、吉浦先生にデッサンを教えて

もらいました。使う道具やモチーフも真似して、技術以外にもいろんなものを盗もうとしていました」

2019年、第1回タガワアートビエンナーレ「英展」で大賞を受賞し、ニューヨークでのグループ展に参加した。「誰も僕の絵なんて見ていませんでした。MOMAやガゴシアン・ギャラリーにも行ったのですが、ここに掛かっている作品と僕の作品は何が違うのだろうと、帰国してから悶々としていました」

そんな鳥越に決定的な変化をもたらしたのが、九州派^{*}を代表する作家の一人・桜井孝身の作品との出会いである。2020年の12月、Gallery MORYTAの代表・森田俊一郎を手伝って倉庫に桜井の作品を取りに行った鳥越は衝撃を受けた。「圧倒的な存在感を感じました。同時に、なぜこんなにすごい作品が美術館に収まっていないんだろうと驚いたんです。九州派を応援していた人々の思いは当時は実らなかつたけれど、時代を超えて自分がその作品に感動している。そこにアートの本質があると思いました」。翌年のなかお画廊のグループ展「春ハレ展」では、それまでの作品とは異なり、九州派を彼なりに解釈した新作を発表。完売を記録し

た。そしてAFAF2021で冒頭の快挙を遂げ、それに飽き足らず精力的に個展を開催してファンを獲得していった。

鳥越の活躍は九州にとどまらない。昨年11月にはART KAOHSIUNG(台湾・高雄)に Gallery MORYTAから出品。大作10点が完売した。「ポップな作品が人気を得る中、鳥越さんの重厚な作品が受け入れられるか不安でしたが、大コレクターからのフェアの中でも輝いているねと言われました。上位1%の目利きの方に評価されることは、売上げ以上に影響力があります」と森田は語る。

一方で、そのとき鳥越が大勢の来場者たちと「Xのポーズ」をとって記念写真を撮っていたのも、彼の人柄を表すエピソードだろう。作品に深みがあると同時に、多くの人の印象に残るキャッチーさも兼ね備えていることは、人気作家の大事な条件だ。鳥越は今後、さらに活躍の場を広げていくに違いない。



ART KAOHSIUNG 2022の来場者とポーズをとる鳥越

た人々の思いは当時は実らなかつたけれど、時代を超えて自分がその作品に感動している。そこにアートの本質があると思えました。翌年のなかお画廊のグループ展「春ハレ展」では、それまでの作品とは異なり、九州派を彼なりに解釈した新作を発表。完売を記録し

とりこえ・かずき 1986年福岡県生まれ。2007年日本デザイナー学院九州校卒業。

●鳥越一輝exhibition - TORIGOE X (2022年4/3~4/24・Gallery MORYTA) にて100% (17点中17点) ●アートフェアアジア福岡2022 (2022年9/30~10/3・ホテルオークラ福岡 [Gallery MORYTAブース]) にて100% (8点中8点) ●鳥越一輝「2022.22のヌード」(2022年9/23~10/23・Gallery MORYTA) にて86% (21点中18点) ●ART KAOHSIUNG 2022 (2022年11/10~11/13・駁二藝術特區 [Gallery MORYTAブース]) にて100% (10点中10点)

取り扱い画廊 Gallery MORYTA
Information アートフェアアジア福岡2023 (10月・●● [Gallery MORYTAブース])

※九州派……桜井孝身、菊畑茂久馬、オチ・オサムなど、1950~60年代にかけ、福岡を拠点に活動した前衛グループ。たわしや空き缶など身近な生活用品を素材に用い、「反芸術」のイニシアチブをとって「反中央」を論じた。